

洛和会京都看護学校 学校評価 令和6年度自己評価結果

本校が取り組んだ令和6年度の学校運営を振り返り、点検・評価した自己評価結果を以下に取りまとめる。

令和6年度においては、学校創立40周年及び校舎新築移転に向けて「選ばれる学校づくり・教育環境の充実」を重点的に展開することとした。

なお、学校評価に際し年度末に生徒アンケート、教員アンケートを実施し、経年変化を調べるとともに、双方の意識の乖離を測ることとしている。看護学科の回収率は80.6%（前年度76.5%）、助産学科の回収率は85.0%（前年度95.0%）となっている。教員の回収率は87.5%であった。

1 基礎データ（令和6年度）

（1）生徒数 ※令和6年4月1日時点

看護学科1年 (定員80名)	看護学科2年 (定員80名)	看護学科3年 (定員80名)	助産学科1年 (定員20名)	合計 (定員260名)
86名	86名	80名	20名	272名

（2）国家試験合格者数

区分	受験者数	合格者数	合格率
看護学科	75名	75名	100%
助産学科	20名	20名	100%

（3）就職率

看護学科	100%
助産学科	100%

2 評価項目

（1）教育理念・教育目的について

本校の教育理念は、「洛和会ヘルスケアシステムの理念（※1）を基盤とし、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持った助産師・看護師の育成を目指す。」及び「豊かな人間性と看護に必要な態度、知識、技術を持った地域医療に貢献できる医療人の育成を目指す。」の2点である。

また、教育目的には「人間を総合的に理解し、人間愛と人権意識に根差した、対象から信頼される専門的パートナーシップを備えた医療人を育成する。」「専門職として必要な知識及び技術を身につけ多様な対象の個別性に対応できるよう、知識を自ら探求し、解決していく医療人を育成する。」と定めている。

（※1 洛和会ヘルスケアシステムの理念とは「一 顧客第一に質の高い医療、介護、保育を提供します」「一 すべてのサービスに誇りと責任を持ちます」「一 経営基盤を確立し、個人と組織の向上を目指します」の3点である。）

教育理念、教育目的について学生の理解度と教員の周知・浸透に係る自己到達度を問う

たところ、教員は「理念」「目的」とともに減少し、「あまりできなかった」との回答が前年度より多く、「周知できる機会の確保が難しかった」、「指導に悩んだ」等の意見が見られた。一方で学生側は、「理念」「目的」とともに「かなりできた」「ある程度できた」の割合が上昇し、浸透していることが窺える。

次年度に向けて、教員が余裕をもって教育理念や教育目的を指導できる機会を確保できる体制を整備する必要がある。学生に対しては、引き続き本校の教育理念、教育目的、さらにはアドミSSIONポリシーなど 3 つのポリシーを周知・浸透させられるよう工夫を続けるとともに、募集段階から学生にしっかり理解・認識してもらえよう、各種広報資料等でも広めていく必要がある。

(2) 学校運営について

令和 6 年度においては、学校長 1 名、学科長 2 名、副学科長 2 名及び専任教員 12 名と実習指導教員 1 名、さらに教務事務担当職員 3 名、管理部担当職員 9 名の体制で学校運営を進めた。

また、きめ細かな学校運営を展開するために「看護学科会議」「カリキュラム会議」「国家試験対策会議」「専門領域別担当者会議」「隣地実習指導者会議」「学内判定会議」、さらには、「運営会議」「退学防止プロジェクト」「図書委員会」「TQM 委員会」「DX 推進委員会」「インスタグラム・学校だより委員会」「オープンキャンパス委員会」「広報戦略委員会」など各種委員会や会議を設置し連絡調整、企画運営を進めている。

(3) 教育課程・教育活動について

令和 6 年度の教育課程及び教育活動がどの程度有用であったかについて学生及び教員にアンケートをとった。

まず、シラバスについて、授業内容を理解しやすく有用であったと受け止める学生は前年度と比べ看護学科で 3.9 ポイント低く 64.4%、助産学科では 1.8 ポイント低く 82.4%であった。また教員は 15.1 ポイント低く 57.1%となり、全体を通してシラバスの内容に満足がいないことが窺える。今後の課題として次年度に向けて精査が必要である。

次にカリキュラムについて、【段階的に学べるよう工夫されていたか】との問いでは、看護学科の学生は前年度より 7.1 ポイント上昇し 75.9%、助産学科の学生は前年度より 7.7 ポイント減少し 76.5%となった。よりいっそう学生の学習理解が深まる工夫・改善が不可欠である。

また、学習の躓きにどう対処しているかを複数回答で問うたところ、例年通り「級友に聞く」が最も多く（看護学科で 82.2%、助産学科で 88.2%）、ピアサポート的な良さが見られる一方、「教員・指導者に聞く」を選択している層が両学科とも 4 割程度であり、正しい理解を深めてもらうためにも、教員に聞きやすい環境を整え、この比率を確実に高める工夫が必要である。

(4) 学習の到達度について

令和 6 年度における本校の看護師国家試験および助産師国家試験の合格率はともに 100%を達成することができ、学習の到達度が数字として表れた結果となった。夏頃からは 21 時まで学校を開放し、卒業生から勉強を教えてもらう機会も設け、学習環境の整備を行った。

引き続き、定期的な模擬試験の実施、国家試験対策の強化、ICT による特別講義の実施などを進めるとともに、基礎力を高める取組や入学前学習の推奨、さらには教員一人一人が学生の学習の躓きに適宜・適切に対応することが肝要である。

就職率については看護学科、助産学科ともに 100%であった。

学生の退学率は、看護学科の 1 年生が 7.0%、2 年生が 3.5%、3 年生が 3.8%、助産学科の生徒の退学率は 0 %であった。前年度比では、1 年生で 4.5 ポイント増、2 年生で 3.2 ポイント減、3 年生で 0.1 ポイント増となった。

とりわけ 1 年生で進路変更を理由とした退学が多く見受けられ、洛和会のメンタルサポート室との連携を含めた退学防止対策及びチューター制等によるサポートを引き続き充実させていくと同時に、入学時に看護職を進路として選択する意識の確認を徹底することも効果的であると考えられる。

(5) 奨学金など学生への支援状況について

当校では令和 4 年度に「大学等における高等教育の修学支援新制度」の確認申請を行い、令和 5 年度から対象校に認定されたところである。この制度を利用した学生は令和 5 年度は 16 名であったが、令和 6 年度は 32 名と倍増した。

また、医療法人社団洛和会が貸与する「洛和会奨学金」（返還免除の規定あり）や「洛和会京都看護学校入学時緊急貸与特別奨学金」をはじめ学校法人洛和学園の「矢野奨学金」「特待生奨学金」（いずれも給付）を用意しており、令和 6 年 4 月時点で、洛和会奨学金は看護学科学生 252 名中 192 名が受給し、およそ 76%を占めた。令和 6 年度からは、さらに利用されやすいように保証会社（機関保証）が導入された。今後も合格者へ積極的に案内し、洛和会ヘルスケアシステムの看護師確保対策の一助となれるようすすめていく。

そのほか、京都府をはじめとした行政の修学支援、日本学生支援機構の貸与型奨学金、専門実践教育訓練給付制度での教育訓練給付金・教育訓練支援給付金、国の教育ローン、オリコ学費サポートプランなども利用されている。

(6) 教育資材・教育環境の整備について

授業及び演習において必要な設備・備品については、毎年充実を図ってきたところであり、令和 5 年度からは看護学科で既に導入しているハイブリッドシミュレーター SCENARIO（医療演習用人体モデル）とも連動して、看護の行動履歴を保存し動画で振り返る IT 管理システムを新規導入し、より実践に備えた教育を施した。助産学科では未熟児の生態に近いモデル人形や産褥期早期の子宮触診シミュレータ等の演習資材を整備し、看護学科同様に実践力の訓練に役立てた。

なお、教育環境の充実に向けては国家試験前の教室使用時間の延長や別棟の洛和図書

館に配架した看護医療系雑誌を本校ロビーに移管し閲覧の自由度を高める等の措置を採った。

令和 7 年 3 月には新校舎が竣工し、図書室、インターネット環境の充実、高度医療に対応する演習用 IT 機器の整備等、ハード、ソフト両面で教育環境の飛躍的な向上が期待される場所である。

(7) 入学志願者増の取組について

オープンキャンパスについては、前年度より開始時期を 1 カ月早め、4 月に第 1 回を開催した。また、特に参加者数が多く見込まれる 6 月、8 月は午前と午後の 2 回開催、さらには遠方の方向けにオンライン開催も行った。参加者の合計は 255 名、同伴者も含めると 391 名の来校を得た。

助産学科においても、8 月は昼と夜の 2 回開催に加えて遠方の方向けにオンラインでも同時開催し、合計 149 名が参加。同伴者を含めると 175 名となった。

同伴者を除いた当事者ベースでは看護学科で前年比 +111%、助産学科で前年比 +134% であった。

進路ガイダンスは合計 72 回と前年より 4 回増の参加、来校の個別相談には看護学科希望 11 名、助産学科希望 5 名に対応した。このほか高校訪問や出前授業、高校の進路指導担当教員を対象とした学校説明会等を開催した。

以上の取組みを経て、令和 7 年度募集入試において看護学科では定員 80 名に対して 113 名の出願（うち 109 名受験）、助産学科では定員 20 名に対して 114 名の出願（うち 96 名受験）となった。

看護系の大学及び専門学校においては、少子化等の影響で、いずれの学校も入学定員割れを起し、募集を停止した学校もあるが、当校では現状 1 度も定員割れを起していない。引き続き当校の魅力を最大限発信し、他校との差別化を図る必要がある。

(8) 特別活動について

新型コロナウイルスの影響で見送られていた卒業前の研修旅行が令和 5 年度から復活し、令和 6 年度も引き続き実施した。研修地は前年度のように選択制ではなく、一律で韓国とし、研修対象者 76 名のうち、73 名が参加した。

また、学生が主体となって運営する「水脈祭」は、洛和会メディカルフェスティバルの一部として位置づけられ、学生がお笑い芸人のラジオ公開収録に参加するなど、規模を拡大して実施した。

また、キャンドルセレモニー（看護への誓い）も、父母のみならず指定校の進路指導担当者にも通知を行い、現役高校生の見学も募った。このほか、消防訓練、交通安全教室、20 歳の誓い、ホームカミングデー、父母会等の各種行事やイベントを催した。

(9) 地域・社会への貢献、他機関との連携状況について

本校においては、地域医療の中核を担う総合病院として地域とのかかわりを重視して

きた。高校への出前授業や保育所での手洗い指導などを従来から行っていたが、令和6年度は助産学科の学生が地域の児童館と協同して中高生世代と赤ちゃんとの交流活動を開催し、妊婦体験や産道体験、命の授業を実施した。

また、ボランティア活動として、JR山科駅において山科警察署とともに令和6年5月21日に「痴漢撲滅啓発活動」を行ったほか、校内でも就労支援施設で作られたパンの販売支援、NPO法人の取り組むフードドライブへの協力を行った。

今後とも地域の諸機関との連携により、相互に協調・協働して看護にかかわる専門学校ならではの取組みを引き続き発信していくことが必要である。

本評価結果についてはホームページ若しくは刊行物等により公表するとともに「学校関係者評価」を実施し、さらなる点検・改善を図るものである。

(参考)

校内評価委員会

洛和会京都看護学校学校長、看護学科長、助産学科長、看護学科副学科長、管理部長